

平成 22 年 3 月 26 日
萩原工業株式会社

温度抑制機能のある人工芝原糸を開発

萩原工業株式会社（本社：岡山県倉敷市、社長：萩原邦章）はこのほど球技グラウンド用の夏場の温度抑制機能を持ったロングパイル仕様の人工芝パイルを開発しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

天然芝は維持・管理費が高いため、10年ほど前から球技用グラウンドにロングパイル仕様の人工芝が増えてきました。現状ではパイル長約65mmでゴムチップを充填した柔軟性の高い人工芝が主流となっています。

ロングパイル仕様の人工芝は天然芝の風合いを持ち、選手が怪我をしにくいなどのメリットがある一方、夏場にはグラウンドの表面温度が70℃を超える事があり欠点でありました。

そこで、2008年に温度抑制機能のある人工芝原糸の開発を開始し、従来品に比べグラウンドの表面温度を約8℃下げることが可能な合成樹脂モノフィラメント原糸の開発に成功しました。

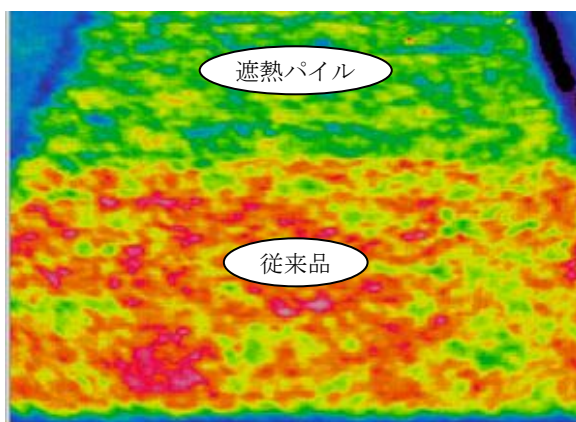
この度、日本のグラウンドでは初めてフェジアーノ岡山の練習場としても使用される灘崎町総合公園多目的広場サッカー場（同市南区灘崎町片岡）に採用となりました。施工は日本フィールドシステム株式会社（津山市）が行なっております。



写真提供：日本フィールドシステム株式会社

サーモグラフィー撮影

パイル面の温度差 表面温度差：2℃～8℃※



※測定値であり保証値ではありません。

以上

お問い合わせ先：萩原工業株式会社 事業支援部門 総務部 総務・人事課 TEL086-440-0860